

私たちにできること

島根県松江市立第一中学校 2年 武藤 史華



夏休みのある日、私はテレビでニュースを見ていました。その時あるニュースが流れてきました。それは、母親が幼児を車に置き去りにし、子どもが熱中症で死んでしまったというニュースでした。夏になると毎年のように見るようになったこのニュース。それも一度だけではなく何度も目にします。

私は考えてみました。この夏、銃で撃って人の命を奪ってしまったというニュースもありましたが、この場合、人は銃で撃たれたら死んでしまうなどという想像が付きまします。だから犯人は意図的に撃ったのだと思います。しかし幼児を車の中に置き去りにすることはどうでしょう。もしかしたら母親は「これくらいの時間なら大丈夫。」とか、「家や車の中なんだから死ぬことはないだろう、大丈夫。」と思っているのではないかと思います。目に見えなかったり、意図的ではないことが結果として、命を失ってしまう事になってしまっているのではないかと思います。つまり私は、母親が想像力に欠けていたのではないかと思います。その上、幼児はまだ意思表示が泣くという行動でしかできない場合が多いです。だから余計に幼児が何を思っているのかと、読み取るのにも想像力が必要だと思います。

幼児を置き去りにしてしまった母親は、きっと、「あの時こうしておけば・・・」と後悔していると思います。幼児を車の中に置き去りにするという行動はきっと意図的ではないはずです。毎年のように目にしているこのニュースを見ている側としては、他人事として見ているから、毎年のように発生しているのだと思います。そこでも自分だったらこうすると想像できる人は、絶対に子どもを車の中に置き去りなんてしないと思いました。私はこのニュースについて家族と話し、想像する事の大事さに気づきました。

これは、このニュースに限らずもっと自分の身近な生活の中でも考えられることだと思います。学校生活の中でも、この言葉を言ったら相手はどう感じてしまうのかな、と考えてから行動する事も同じ事だと思います。これは相手の気持ちを想像しています。他にもあります。例えば、廊下を走っている友達に対して、

「危ないよ、歩いて！」

と声をかけることも、想像力を働かせた行動の一つだと思います。

この事から私は、想像力を働かせるということは相手を思いやるという事ではないかと思います。想像力を働かせるという事は、決して簡単なことではないけれど、人を思いやる人が増えることで、きっとこのような事件やニュー

スも減っていくはずです。そして何よりもみんなが安心した生活を送ることができるようになると思いました。一人一人が意識をして、少しでも早く身近で起きる事件が少なくなって欲しいなと思います。そのためにまずは自分が相手の気持ちを想像し思いやりの気持ちをもてるように、毎日の学校生活の中で意識していきたいと思えます。